

**大阪・梅田駅周辺サイン整備  
標準仕様（共通ルール）  
Ver. 1.1**

大阪・梅田駅周辺サイン整備検討協議会

2020年2月一部改訂



## 目次

### 1. 概要

#### 1-1. 本書について

1-1-1. 標準仕様（共通ルール）作成の目的と位置付け ..... 1

1-1-2. 対象範囲 ..... 2

1-2. 案内誘導の仕組み ..... 8

### 2. 基本ルール

#### <配置計画>

#### 2-1. 【サイン共通】設置基準

2-1-1. 設置基準（どこに何を） ..... 10

2-1-2. 設置基準（どのように） ..... 12

#### <情報計画>

#### 2-2. 【サイン共通】表示情報

2-2-1. 掲載する情報 ..... 13

2-2-2. 多言語表記 ..... 15

2-2-3. 表記方法 ..... 16

2-2-4. 用語の取り扱い ..... 17

2-2-5. 用語リスト ..... 19

2-2-6. 出入口記号表示システム ..... 20

#### <デザイン>

2-3. 【誘導サイン】デザイン（色彩） ..... 22

#### 2-4. 【誘導・案内サイン】デザイン（書体）

2-4-1. 日本語書体 ..... 24

2-4-2. 英語・数字書体 ..... 25

2-4-3. 韓国語・中国語（簡体字）書体 ..... 26

2-5. 【誘導・案内サイン】デザイン（ピクトグラム） ..... 27

2-6. 【誘導サイン】デザイン（矢印） ..... 28

#### 2-7. 【誘導サイン】デザイン（基本割付）

2-7-1. 文字とピクトグラムのサイズ ..... 29

2-7-2. 文字とピクトグラムの割付比率 ..... 30

2-8. 【誘導サイン】デザイン（基本表示面構成） ..... 33

### 3. 誘導ルートの設定

3-1. 誘導ルート設定の考え方 ..... 35

# 1. 概要

## 1. 概要

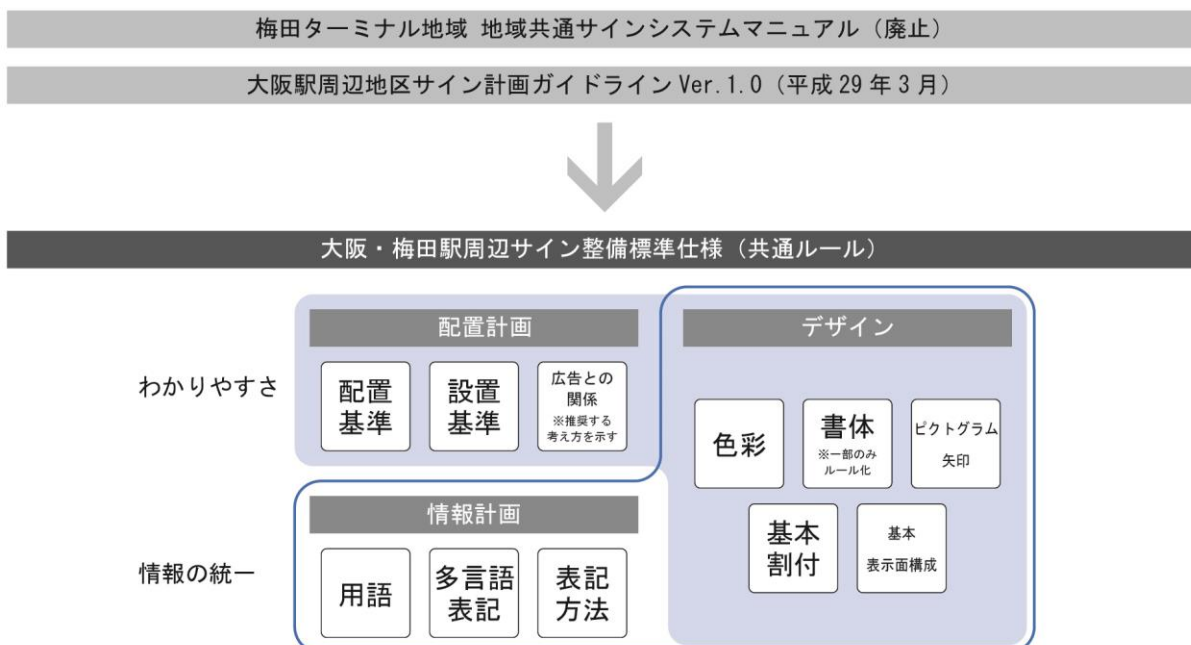
# 1-1 本書について

## 1-1-1 標準仕様（共通ルール）作成の目的と位置づけ

### 標準仕様（共通ルール）作成の目的と位置づけ

本標準仕様（共通ルール）は、大阪・梅田駅周辺地区における来訪者の回遊性向上や利便性確保を目的に策定された「大阪駅周辺地区サイン計画ガイドライン Ver. 1.0（梅田エリアマネジメント実践連絡会 平成 29 年 3 月）」と地下を対象とした既存のルールである「地域共通サインシステムマニュアル（2005 年 梅田ターミナル地域サイン整備連絡会）」をベースとし、「情報の断絶（ミッシングリンク）」及び「わかりにくさ（表示・レイアウト・配置）」の解消のために、その内容の一部を拘束力のある共通ルールとすることで、当該地区のサイン整備を推進することを目的とする。

なお、本標準仕様（共通ルール）に定めのない事項については、「情報の断絶（ミッシングリンク）」「わかりにくさ（表示・レイアウト・配置）」の解消に支障と成らない範囲において、各事業者のマニュアル等を適用できるものとする。



## 1. 概要

### 1-1-2 対象範囲

#### 対象範囲

「特定都市再生緊急整備地域」（図Ⅰ）のうち、対象駅間※1 を誘導するルート。（図Ⅱ）  
出発地点駅改札口から目的地点駅改札口までの間の誘導範囲。（図Ⅲ）

※1 JR大阪駅、阪急電車大阪梅田駅、阪神電車大阪梅田駅、御堂筋線梅田駅、谷町線東梅田駅、四つ橋線西梅田駅、  
JR北新地駅、空港バス（新阪急ホテル）、空港バス（ハービス OSAKA）、空港バス（大阪マルビル）

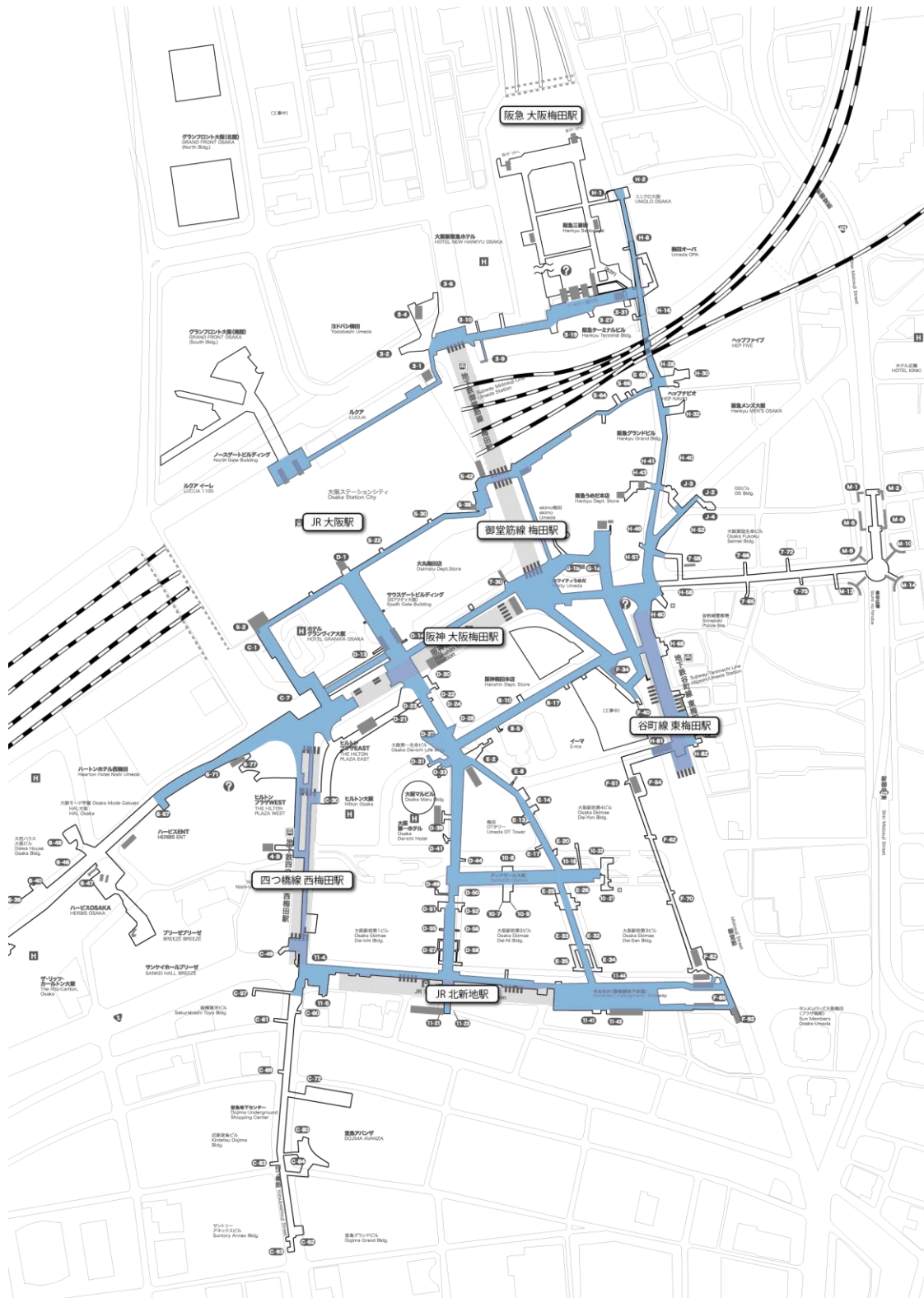
（図Ⅰ）「特定都市再生緊急整備地域」(URL:<http://www.city.osaka.lg.jp/toshikeikaku/page/0000004931.html>)



# 1. 概要

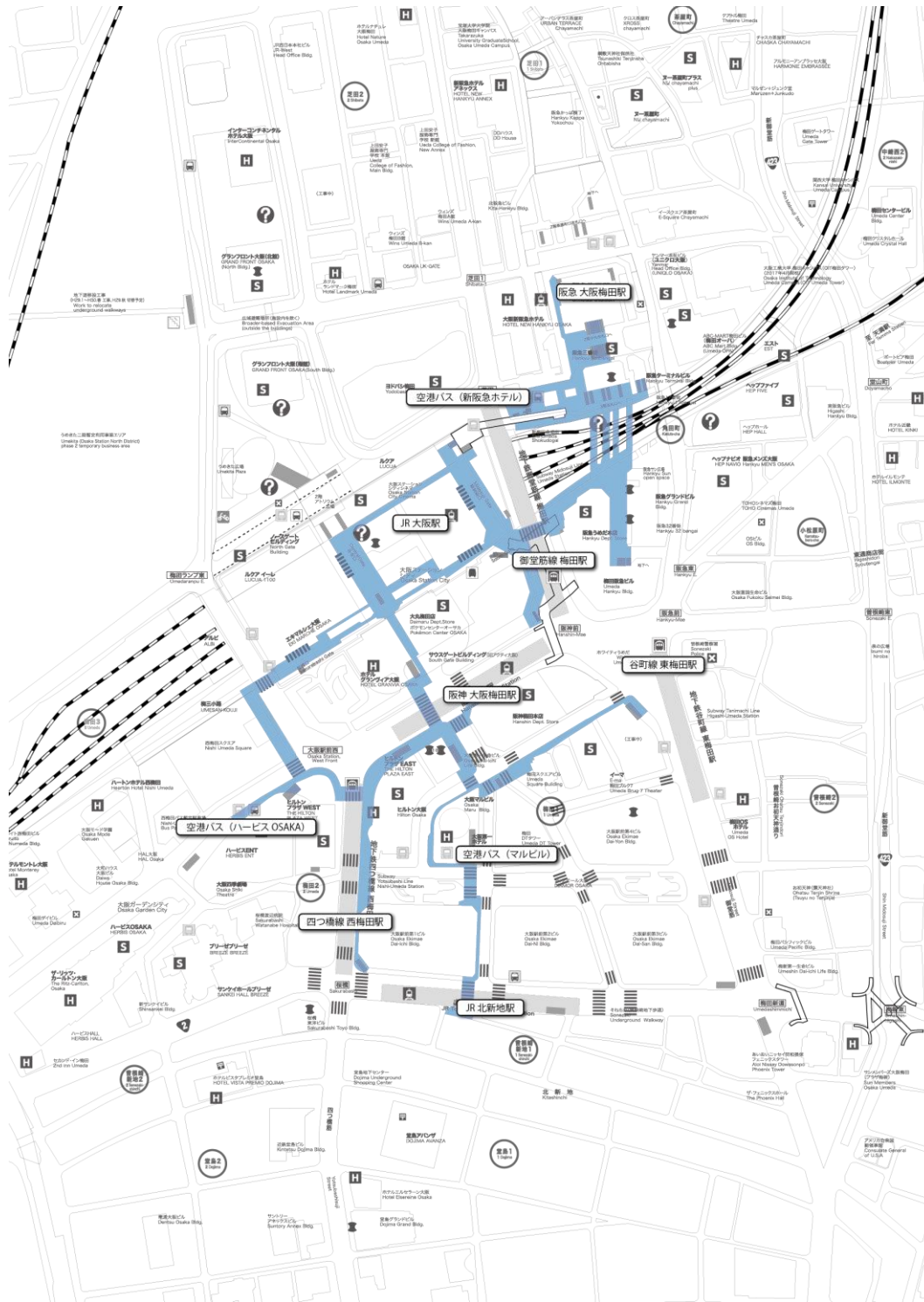
(図Ⅱ) 整備を行う誘導ルート

・地下



# 1. 概要

## ・地上

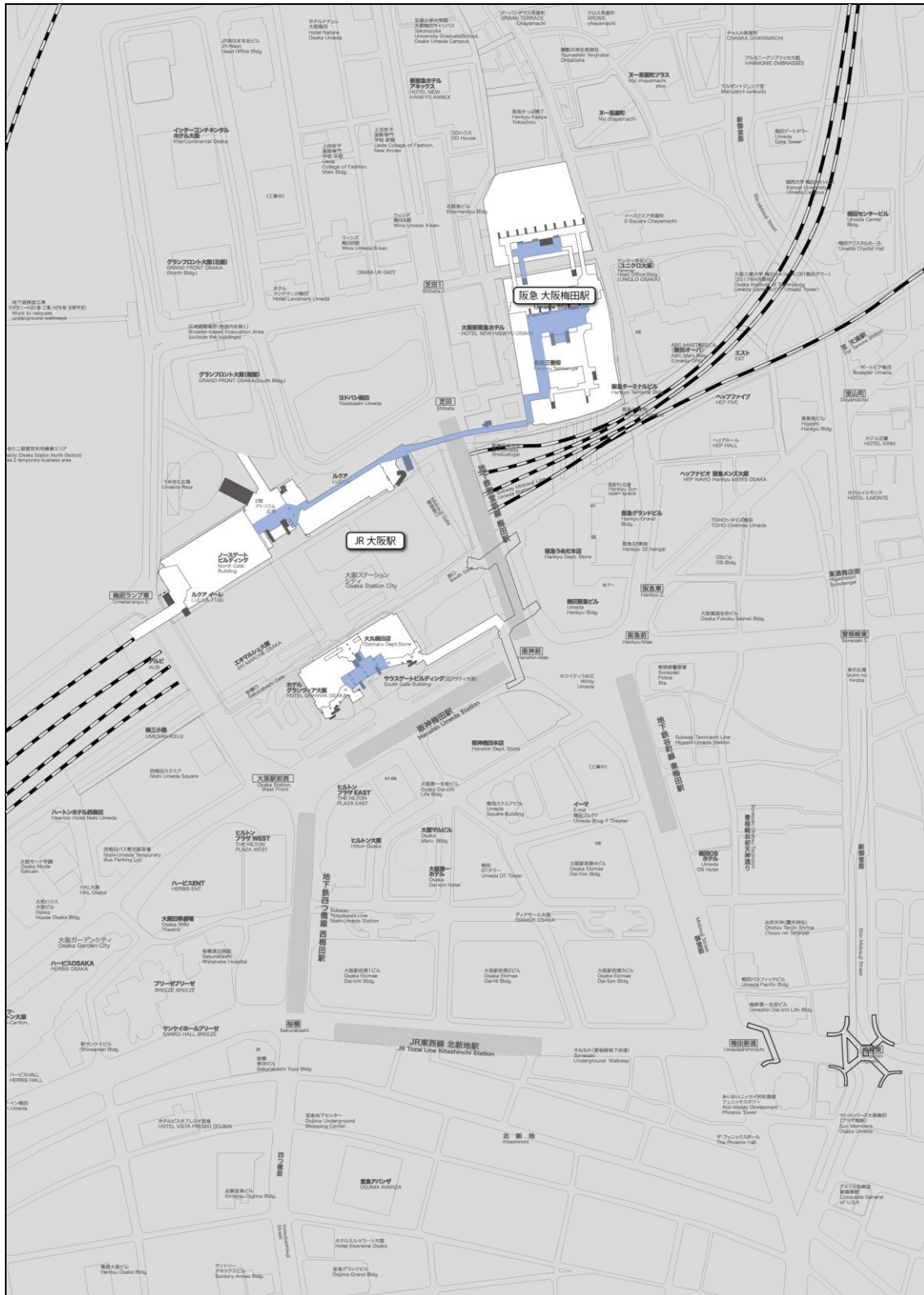


※大阪市景観計画・重点届出区域内にサインを設置される場合は、都市景観条例に基づく協議が必要となる。



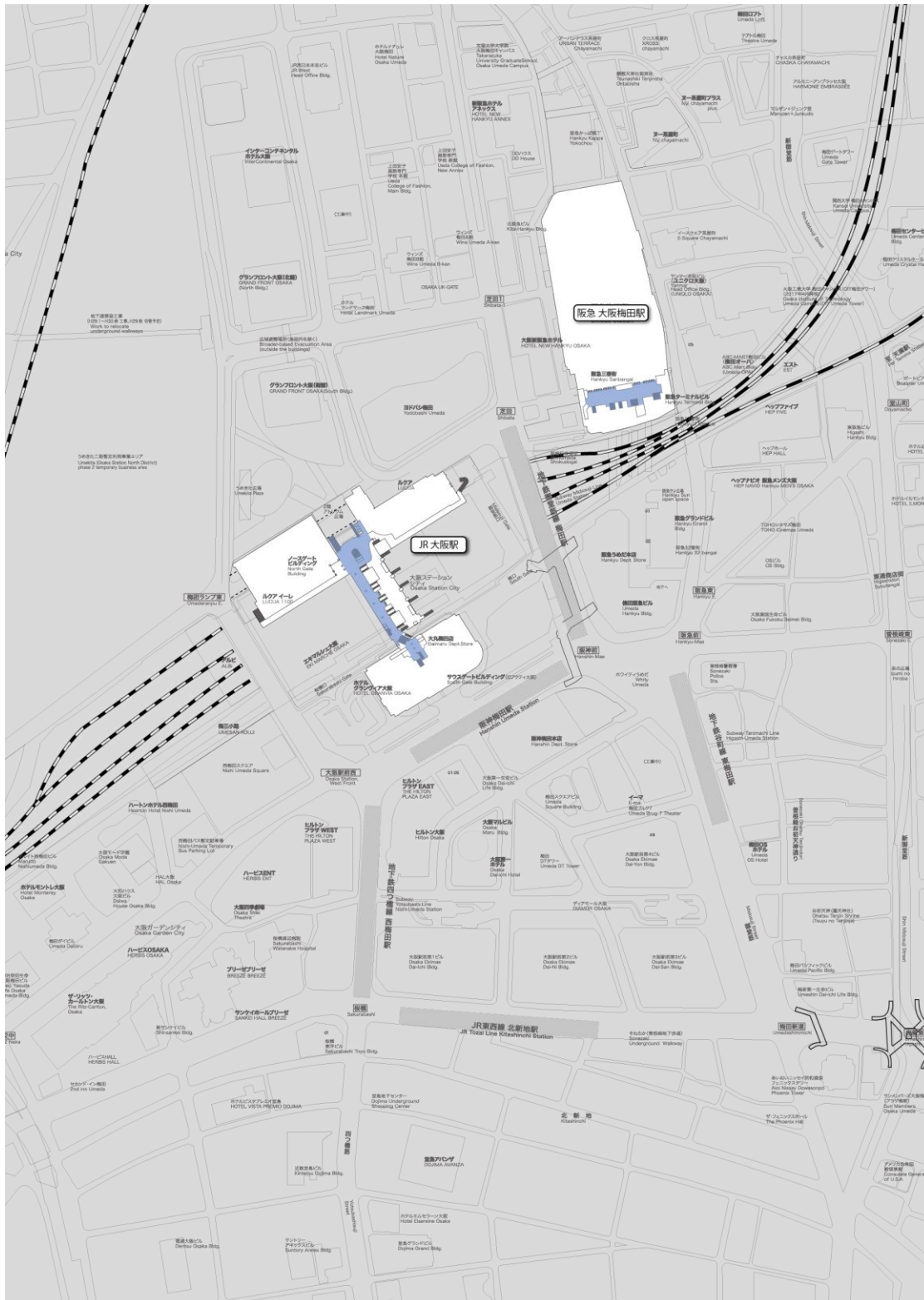
# 1. 概要

・ 2F



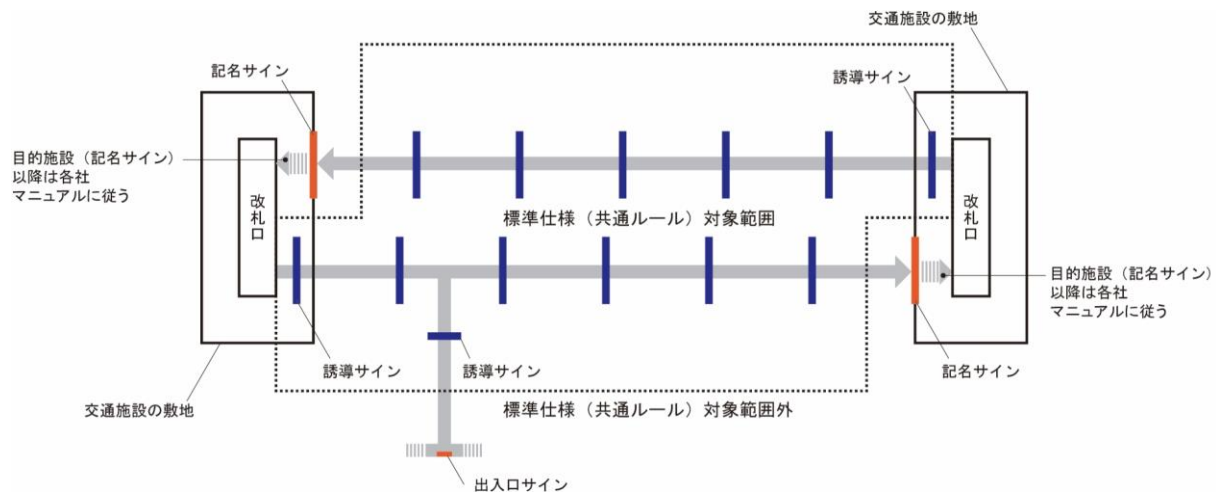
# 1. 概要

・ 3F



1. 概要

（図Ⅲ）誘導範囲

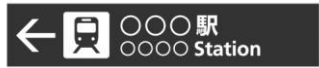







1. 概要

## 1-2 案内誘導の仕組み

### サインの機能種別

サインの機能種別は以下の通り定義する。

機能種別	定義	イメージ	補助対象
誘導サイン	施設等の方向を指示するのに必要なサイン  ※施設等を誘導する出入口サインは補助金対象とする。	   ※	○ 対象
案内サイン	施設等の位置関係を案内するのに必要なサイン		○ 対象
記名サイン	施設等の名称を表記するのに必要なサイン		× 対象外
出入口サイン	出口サイン：地下道、施設等からの出口の名称を表記するサイン  入口サイン：地下道、施設等への入口の名称を表記するサイン	 	× 対象外

※補助とは「大阪・梅田駅周辺サイン整備事業補助」を指す。

1. 概要

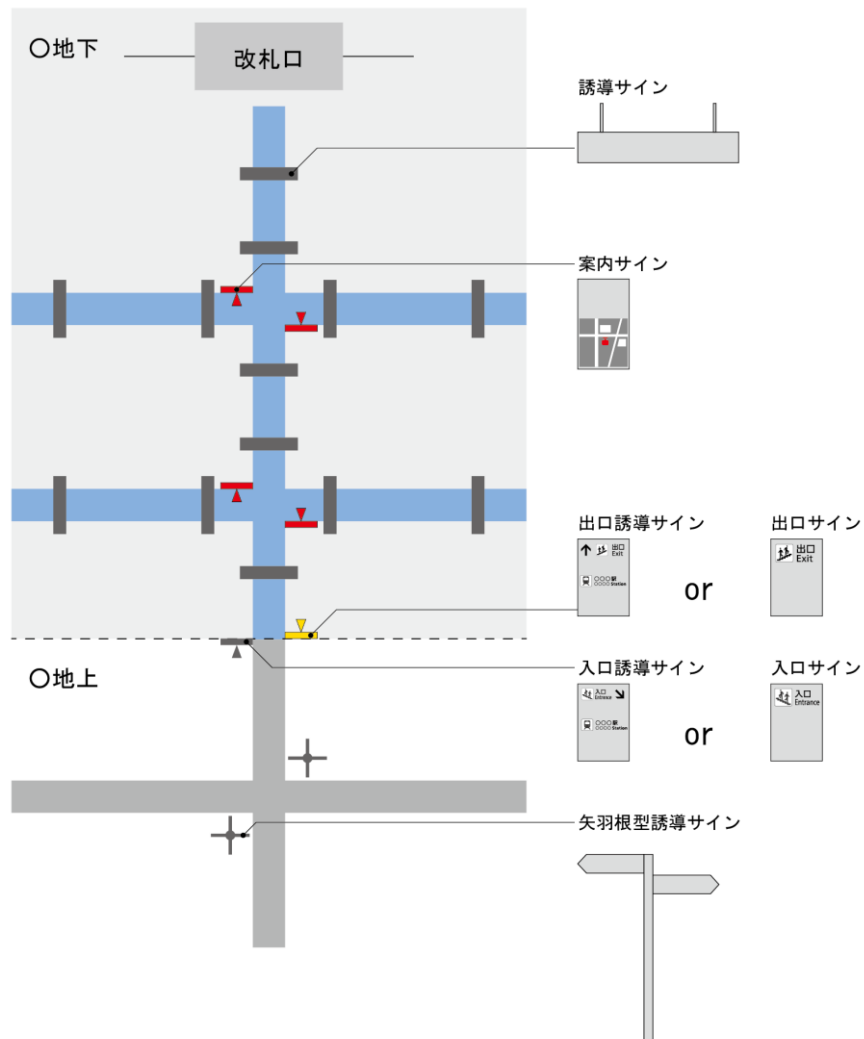
サインの設置形式

サインの設置形式は以下の通り定義する。

設置形式	定義
矢羽根型	柱から突出して目的の方向を指し示す形式
吊下げ型	天井や梁などから吊り下げる形式
突出し型	壁や柱などから突出して設置する形式
ボーダー型	開口上部や垂れ壁などに、横に設置する形式
壁付型・柱付型	壁や柱に平付ける形式
自立型	床や地面にアンカーを打って自立させる設置形式

案内誘導のモデル

案内誘導は、目的施設へ向けた起点（主に改札口など）から終点（目的施設の記名サインやのりかえ改札口など）までの間を、誘導サインと案内サイン、記名サイン（出入口サインを含む）を適切に配置し円滑な移動を促すことを目指す。

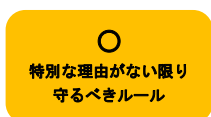


## 2. 基本ルール

※2章でページ右上に記載の記号については下記のルール・考え方を示すものである。



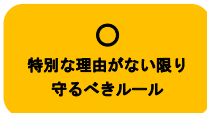
: 必ず守るべき共通ルール



: 特別な理由がない限り守るべきルール



: わかりやすさ向上のために推奨する整備の考え方



## 2-1 【サイン共通】設置基準

### 2-1-1 設置基準（どこに何を）

#### 基本的な考え方

- ・サインの配置：迷うポイントに対して機能に即したサインを設置する。
- ・サインの向き：機能に応じた表示方向で設置する。
- ・管轄内、管轄間で情報が途切れないよう、連携して配置する。

#### ルール (1) 誘導サイン

- 分岐点に配置する。
  - 直線であっても、距離が長いなど、不安になるような場合は配置する。
  - 誘導サインは歩きながら視認するため、動線上に配置する。  
 吊下げ型や突出し型は動線上の正面に見える位置に情報を表示する。
  - 矢羽根型サインは歩道など見通しの良い交差点（分岐点）に設置し、表示面は目的地方向を指す。表示面が自然に視界に入る見やすい高さに情報を掲出する、ユニバーサルな視点も配慮する。
- ※ ただし、物理的に制限がある場合は、その限りではないこととする。

#### ◆ 設置目安（「公共交通機関旅客施設のサインシステムガイドブック（交通エコロジーモビリティ財団）」より）

設置形式	掲出高さ (床面から器具下端まで)	器具の高さ	配置間隔
吊下げ型	2500mm程度	300mm 日本語文字高 80mm程度	30~40m
	2700mm程度	400mm 日本語文字高 120mm程度	45~60m

## 2. 基本ルール <配置計画>

### ルール (2) 案内サイン

- 改札口を出た正面に配置する。
- 分岐点に配置する。
- 階層間を移動する際は始終点に配置する。
- 実際の地形と地図の表示方向を合わせる。

### 推奨事項

- 広告と同化しないよう、区切って配置する。（独立させることを推奨する。）



## 2-1-2 設置基準（どのように）

### 基本的な考え方

- ・表示面が自然に視界に入る見やすい高さに情報を掲出し、ユニバーサルな視点も配慮する。

#### ルール

- サイン設置形式別の設置高さは、下表を基本とする。

#### ◆ 設置目安

設置形式	掲出高さ
吊下げ型 突出し型 ポーター型	視点の高さより仰角 10° 以内を目安に設置する。 サイン筐体の下端は 2100mm 以上確保する。（建築基準法より）
壁付型 自立型	地面から 1350mm を中心に、最高高さを 2000mm、最低高さを 500mm の範囲を基準とする。
矢羽根型 （屋外）	歩道側のサイン板面は下端を地面から 2500mm 以上に設置する。 （道路構造令より）

## 2-2 【サイン共通】表示情報

### 2-2-1 掲載する情報

#### 基本的な考え方

- ・表示内容はわかりやすさを優先して情報を選別する。
- ・シンプルかつ利用者にとって理解しやすい表現で統一する。

#### ルール

- 掲載する情報は交通施設、利便施設、主要施設とする。
- 誘導サインに記載すべき施設は下表の通りとし、優先度はA・B・Cの順とする。

#### ◆ 誘導サインに掲載する情報

優先度	分類	掲載
A 交通施設	鉄道、地下鉄	●
	空港バス、高速バスのりば、バスターミナル	◎
B 利便施設	案内所、広域避難場所、出口、お手洗い、エレベーター、きっぷうりば、タクシーのりば など	○
C 主要施設	大阪市主要集客施設 ※「大阪市主要集客施設」については別途添付資料を参照	◎
	デパート、ショッピングセンター、大型ホテル 案内の目安となる大型建築施設	○

凡例 ●：必ず記載

◎：1つないし2つ手前の分岐より必ず記載、それ以外はできるかぎり記載

○：近域（現在地から半径100m以内）はできるだけ記載



**ルール**

**● 案内サインに記載すべき施設は下表の通りとする。**

◆ 案内サインに掲載する情報

表示対象		名称	ピクトグラム	備考	
ベース図	方位・距離スケール・現在地	方位			
		距離スケール			
		現在地		現在地が地図の中心になるように表示	
	地勢・土木構造物	鉄道（線路）	○		原則としてすべて／路線端部には至○駅（隣接）（鉄道は広域図のみ都市名）の表示は煩雑になるため省く。
		地下鉄（線路）	○		
		道路	●		愛称道路・国直轄一般国道・主要地方道・府道・市道のみ 道路端部には至○市・町の表示は煩雑になるため省く。
		高速道路			線のみ
		交差点・交差点名	●		主要なもの（原則、道路表記と合わせる）
		公園・緑地・臨港緑地	●		概ね 1ha 以上のもの
	行政区界・住居表示・地区名称・広域避難場所	町界・町名	●		原則としてすべて
広域避難場所		◎	■	「広域避難場所」のみすべて記載	
街区符号		○		原則としてすべて（観光案内を目的とするサインを除く）	
交通機関施設	鉄道駅	◎	■	すべて記載	
	地下鉄駅	◎	■	すべて記載（駅番号・線記号も記載）	
	駅出入口	●		出入口番号を記載	
	タクシー乗り場		■	駅構内においては原則記載	
	バス停（バス・バスターミナル）		■	原則としてすべて	
	バス停（空港バス）	◎	■	関西国際空港行の空港バスのみ	
	バス停（空港バス／高速バス（長距離バス））	○	■	伊丹空港行のバス／乗合バス事業者の高速バスのみ	
	駐車場			バス駐車場	
	施設	案内所		■	すべての観光案内所
		官公庁	●		国・府・市の関連施設を含む
総領事館		◎		原則としてすべて	
報道機関		●		新聞社 10 社／放送局 6 社 ※1	
警察署・裁判所・消防署		●	■	原則としてすべて／警察署のみピクトグラムも記載	
郵便局		●	■	集配局は名称を記載／その他はピクトグラムのみ	
スポーツ施設		●		府・市営施設のみ	
ホール		●		府・市営施設（外郭団体施設を含む）／他は 200 席以上	
展示会場		●		府・市営施設（外郭団体施設を含む）	
博物館・美術館		●	■	原則としてすべて	
医療施設		●	■	100 床以上の総合病院	
大学・短大・高校・中学・小学校		●		原則としてすべて	
寺院・神社・教会		▲		①歴史の散歩道②区の指定するもの（名所・旧跡マップ等に記載しているもの）③文化財に指定されているもの（外観から常時みられるもの）	
名所・旧跡		▲		上記①～③のほか④大阪市史跡顕彰碑	
歴史の散歩道				点線ルートで記載し凡例で「歴史の散歩道」と表示	
交番			■	原則としてすべて	
大規模小売店		●		店舗面積が 10,000 m <sup>2</sup> 以上／規模に応じて文字サイズ調整※2	
地下街		●		地上地図では表記しない	
地下街地上出入口		●		出入口番号を記載	
ホテル・宿泊施設		●	■	大阪観光局賛助会員ホテル（可能な限り記載）	
劇場・映画館		●		劇場：府・市営施設（外郭団体施設を含む）／他は 200 席以上 映画館：原則すべて	
歩行上 手がかりとなる建築施設		●		超高層建築物（地上 100m 以上の建物）	
建築施設群			○	OAP・OBP など	
バリアフリー施設	地上地下接続などの EV・ESC		■		
	公衆トイレ		■	公衆トイレ・公園内トイレ（障がい者用設備はピクトグラムで表示）	
主要集客施設		●	本エリアでは「ヘップファイブ」		
大阪市主要集客施設		●	本エリアでは「梅田スカイビル（空中庭園展望台）」「グランフロント大阪」		

※1 新聞社：朝日・大阪日日・共同通信・産経・ジャパンタイムズ・日刊工業・日本経済・毎日・読売／放送局：朝日放送・関西テレビ・テレビ大阪・日本放送協会（NHK）・毎日放送・読売テレビ放送  
※2 文字サイズは、商業施設面積が 60,000 m<sup>2</sup>以上のみ文字を大きくする。

◎4 カ国語表記 ●2 カ国語表記 ▲可能な限り 2 カ国語表記 ○名称を日本語表記 ■ピクトグラム表記

「大阪駅周辺地区サイン計画ガイドライン（梅田エリアマネジメント実践連絡会）」を引用（一部修正）



## 2-2-2 多言語表記

**ルール** (1) 誘導サイン

- 日本語と英語を併記することを基本とする。
- 利便施設情報は可能な限り「4カ国語表記（日本語・英語・韓国語・中国語（簡体字）」とする。

補足

- ・利用者視点に立った、文字の視認性の確保、情報量のコントロール、前後のサインとの連続性を確保すること。
- ・情報が煩雑にならない様に配慮すること。
- ・4カ国語表記の場合であっても、表記情報は連続性を確保すること。

### 誘導サインの多言語表記例



**ルール** (2) 案内サイン

- 日本語と英語を併記することを基本とする。
- 交通施設・広域避難場所を「4カ国語表記（日本語・英語・韓国語・中国語（簡体字）」とする。

### 案内サインの多言語表記例





## 2-2-3 表記方法

**ルール**

● 「観光立国実現に向けた多言語対応の改善・強化のためのガイドライン(国土交通省観光庁)」を基本とする。

### 表記方法の具体例

JR 大阪駅	JR Osaka Station	ローマ字+英訳
梅田スカイビル	Umeda Sky Building	ローマ字+英訳
大阪マルビル	Osaka Maru Buiding	ローマ字+英訳
露天神社	Tsuyunoten-Jinjya Shrine	全体のローマ字+英訳 ★

★神社仏閣など固有名詞と普通名詞を切り離してしまうと理解しにくい場合は、「全体のローマ字+英訳（普通名詞）」の表記が望ましい。

### ヘボン式ローマ字表記

日本語音	ローマ字つづり
あ い う え お	a i u e o
か き く け こ	ka ki ku ke ko
さ し す せ そ	sa shi su se so
た ち つ て と	ta chi tsu te to
な に ぬ ね の	na ni nu ne no
は ひ ふ へ ほ	ha hi fu he ho
ま み む め も	ma mi mu me mo
や ゆ よ	ya yu yo
ら り る れ ろ	ra ri ru re ro
わ ん	wa n
が ぎ ぐ げ ご	ga gi gu ge go
ざ じ ず ぜ ぞ	za ji zu ze zo
だ ぢ づ で ど	da ji zu de do
ば び ぶ べ ぼ	ba bi bu be bo
ぱ ぴ ぷ ぺ ぽ	pa pi pu pe po

日本語音	ローマ字つづり
きゃ きゅ きょ	kya kyu kyo
しゃ しゅ しょ	sha shu syo
ちゃ ちゅ ちょ	cha chu cho
にゃ にゅ ньо	nya nyu nyo
ひゃ ひゅ ひょ	hya hyu hyo
みゃ みゅ みょ	mya myu myo
りゃ りゅ りょ	rya ryu ryo
ぎゃ ぎゅ ぎょ	gya gyu gyo
じゃ じゅ じょ	ja ju jo
ぢゃ ぢゅ ぢょ	ja ju jo
びゃ びゅ びょ	bya byu byo
ぴゃ ぴゅ ぴょ	pya pyu pyo

- ・はねる音「ン」は「n」で表記、「m, b, p」の前では「m」を使用。  
 (○) Temmabashi ← (×) Tenmabashi
- ・はねる音「n」と、その次に来る母音または「y」とを切り離す必要がある場合は「n」の次に「-（ハイフン）」を使用。  
 (○) Shin-osaka ← (×) Shinosaka
- ・つまる音は、次に来る最初の子音を重ねる。ただし、次に「ch」が来る場合は「t」を「ch」の前に付ける。  
 (○) Sapporo ← (×)

## 2-2-4 用語の取り扱い

### 基本的な考え方

- (1) 誘導サインの情報：シンプルで理解しやすい表現とする。
- (2) 案内サインの情報：正式名称を基本とする。

#### ルール (1) 誘導サイン

- 2-2-5 に示す用語リストに基づき表記する。

#### 補足

- ・基本は正式名称で表記するが、情報の見やすさが最優先であるため、名称が長い場合や通称が既に広く認識されている場合は例外とする。

#### 交通施設情報の表示用語例

 JR大阪駅 JR Osaka Station	 空港バス(新阪急ホテル) Airport Bus (Hotel New Hankyu)
 JR北新地駅 JR Kitashinchi Station	 空港バス(ハービスOSAKA) Airport Bus (HERBIS OSAKA)
 阪急電車 Hankyu Line	 空港バス(大阪マルビル) Airport Bus (Osaka Maru Building)
 阪神電車 Hanshin Line	
 御堂筋線 <b>M</b> Subway Midousuji Line	
 谷町線 <b>T</b> Subway Tanimachi Line	
 四つ橋線 <b>Y</b> Subway Yotsubashi Line	

## 2. 基本ルール <情報計画>

### ルール (2) 案内サイン

- 2-2-5 に示す用語リストに基づき表記する。

#### 補足

- ・基本は正式名称で表記するが、情報の見やすさが最優先であるため、名称が長い場合や通称が既に広く認識されている場合は例外とする。
- ・正式英訳が存在しない場合は、「観光立国実現に向けた多言語対応の改善・強化のためのガイドライン(国土交通省 観光庁)」に基づいて表記する。

#### 私鉄の表示用語例



#### 地下鉄の表示用語例





## 2-2-5 用語リスト

**ルール**

● サインに表示する用語は下表のとおりとする。

※ただし、下表に表記がない場合は、「観光立国実現に向けた多言語対応の改善・強化のためのガイドライン」に基づき表記する。

### 交通情報

○：誘導サインでの表示用語、■：案内サインでの表示用語、無印：誘導サイン・案内サイン共通の表示用語。

日本語	英語	韓国語	中国語（簡体字）
JR 大阪駅	JR Osaka Station	JR 오사카역	JR 大阪站
○阪急電車	Hankyu Line	-	-
■阪急電車 大阪梅田駅	Hankyu Line Osaka-Umeda Station	한큐 오사카 우메다역	阪急 大阪梅田站
○阪神電車	Hanshin Line	-	-
■阪神電車 大阪梅田駅	Hanshin Line Osaka-Umeda Station	한신 오사카 우메다역	阪神 大阪梅田站
○御堂筋線 <sup>①</sup>	Subway Midosuji Line	-	-
■御堂筋線 梅田駅 <sup>①</sup>	Subway Midosuji Line Umeda Station	지하철 미도스지선 우메다역	地铁御堂筋线 梅田站
○谷町線 <sup>①</sup>	Subway Tanimachi Line	-	-
■谷町線 東梅田駅 <sup>①</sup>	Subway Tanimachi Line Higashi-Umeda Station	지하철 다니마치선 히가시우메다역	地铁谷町线 东梅田站
○四つ橋線 <sup>①</sup>	Subway Yotsubashi Line	-	-
■四つ橋線 西梅田駅 <sup>①</sup>	Subway Yotsubashi Line Nishi-Umeda Station	지하철 요쓰바시선 니시우메다역	地铁四桥线 西梅田站
JR 北新地駅	JR Kitashinchi Station	JR 기타 신치역	JR 北新地站
空港バス（新阪急ホテル）	Airport Bus (Hotel New Hankyu)	공항버스(오사카 신한큐 호텔)	空港巴士（新阪急酒店）
空港バス（ハービス OSAKA）	Airport Bus (HERBIS OSAKA)	공항버스(HERBIS OSAKA)	空港巴士(HERBIS OSAKA)
空港バス（大阪マルビル）	Airport Bus (Osaka Maru Building)	-	-
JR 高速バス	JR Expressway Bus	-	-
高速バス（阪急三番街）	Express Bus (Hankyu Sanbangai)	-	-
高速バス（ハービス OSAKA）	Express Bus (HERBIS OSAKA)	-	-
高速バス（大阪駅前）	Express Bus (Osaka Station)	-	-
大阪駅前バスターミナル	Osaka Ekimae Bus Terminal	-	-

### 利便施設

日本語	英語	韓国語	中国語（簡体字）
広域避難場所	Extensive Evacuation Area	피난장소	庇护
出口	Exit	출구	出口
お手洗い	Restroom	화장실	洗手间
案内所	Information	안내소	问询处
エレベーター	Elevator	엘리베이터	电梯
きっぷうりば	Tickets	표사는곳	售票处
タクシー / タクシーのりば	Taxi	택시	出租车

### 略字

※略字は「観光立国実現に向けた多言語対応の改善・強化のためのガイドライン（国土交通省 観光庁）」に基づく。

正式	略字
Station	Sta.
Department	Dept.
Building	Bldg.
Street	St.



## 2-2-6 出入口記号表示システム

### 基本的な考え方

- ・地下通路に広がる見えない通路の相互の関係を、タテとヨコに簡略化し、はじめて利用する人にもわかりやすく表示する。
- ・出入口記号は、通路記号と位置記号を組み合わせた通路位置記号により表示する。

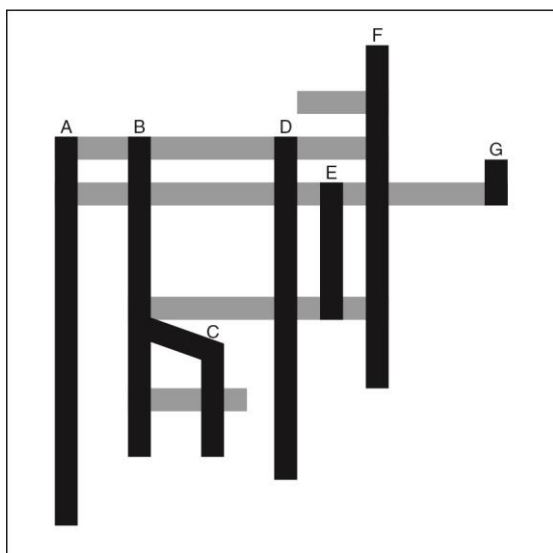
#### ルール

- 通路記号は、タテ（南北）方向の通路を [アルファベット] を用いて西から東の昇順で設定し、ヨコ（東西）方向の通路は [数字] を用いて北から南の昇順で設定する。
- 位置記号は、各通路の原点（タテは北端、ヨコは西端）と終点（タテは南端、ヨコは東端）を特定し、その原終点間を等間隔に整数（最大 100 未満）で設定する。  
なお、原点に向かって通路の左側を奇数番号、右側を偶数番号とする。

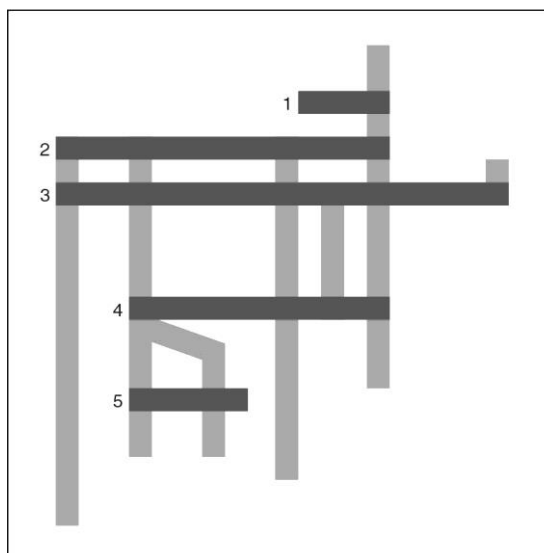
#### 補足

- ・基本は上記ルールによって通路位置記号を設定するが、通路拡大などの特別な事情が生じた場合はこの限りではない。

#### タテ方向の通路 [アルファベット]



#### ヨコ方向の通路 [数字]



2. 基本ルール <情報計画>

- ・位置記号の示す範囲は下図で通路上に付された目盛の前後1目盛りずつ、計2目盛りの部分とする。

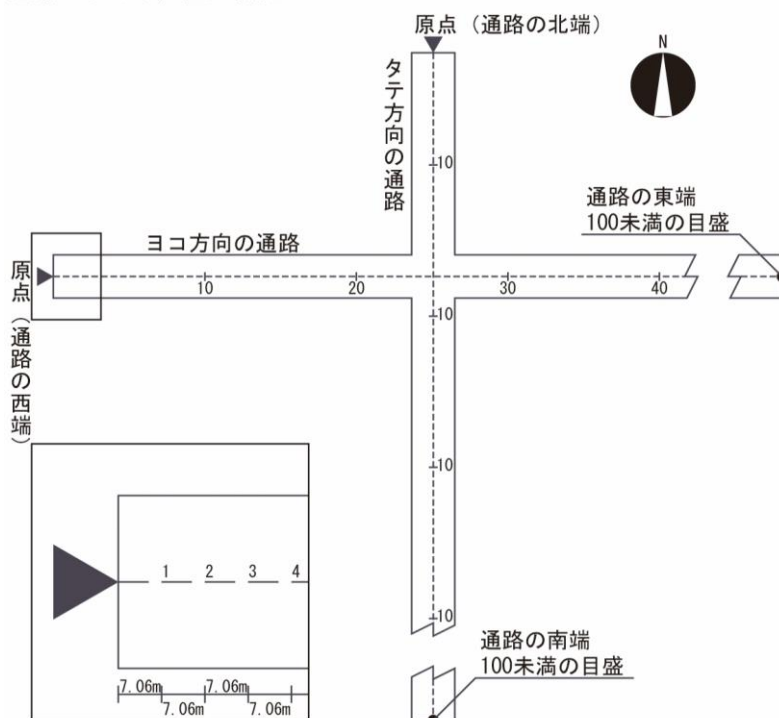
※目盛の単位

1目盛りの単位としては身体的なスケールとして昔使われていた高麗尺※を基準として、ほぼ大人の10歩の歩幅に相当する7.06mを採用する。

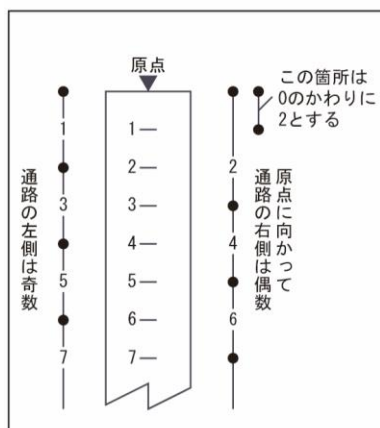
(※高麗尺)

古代国家の地割区分に用いられたとされる長さの単位。1尺は35.3cmにあたる。高麗尺2尺は70.6cmとなり、大人の歩幅に相当する。

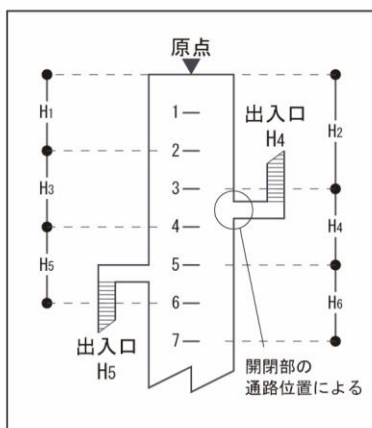
通路における位置の特定



位置記号



通路位置記号・出入口記号 (通路Hの場合)



## 2-3 【誘導サイン】デザイン（色彩）

### ルール

- 利用者が交通施設情報、利便施設・主要施設情報、出口情報を正確に認知できるように、表示面の背景色を変えるなど区別する。

### 推奨事項

- 背景色は基本配色（交通施設情報：黒背景、利便施設・主要施設情報：白背景、出口情報：黄色背景）を使用する。
- ※ ただし、同系色であれば、各事業者のサインマニュアルを優先することを認めることとする。
- ※ ただし、地上に設置する誘導サインについては、高彩度の利用を抑えてください。

### 背景色基本配色

背景色	カラーサンプル
交通施設情報：黒背景	
利便施設・主要施設情報：白背景	
出口情報：黄色背景	

### 背景色基本配色 参考例

・ 交通施設情報、利便施設情報、出口情報の記載がある場合

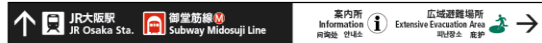


## 2. 基本ルール <デザイン>

- ・交通施設情報と利便施設情報の記載がある場合



- ・サイン板面の高さに余裕がなく縦割りで表示した場合



- ・縦組みの場合



### サインに使用する色彩

No.	使用箇所	カラーサンプル	印刷用 CMYK 値 ※参考
01	サイン黒地、黒文字		C9 M3 K94
02	サイン白地、白文字		K0
03	サイン黄色地		M30 Y83
04	ピクト図柄黒		K90
05	ピクト阪急電車		C30 M100 Y70
06	ピクト阪神電車		C68 M25 K32
07	ピクト御堂筋線		C8 M95 Y100
08	ピクト谷町線		C37 M95
09	ピクト四つ橋線		C91 M44
10	非常口、広域避難場所		C97 M40 Y75

## 2-4 【誘導・案内サイン】デザイン（書体）

### 2-4-1 日本語書体

#### ルール

- 日本語書体は「モリサワ新ゴUD」を使用する。  
※ ただし、同系の書体であれば各事業者のサインマニュアルを優先することを認めることとする。
- 正体の使用を原則とする。文字数や表示面により横変形率80%までの長体使用を可能とする。
- 表示する日本語にアルファベットが含まれる場合、日本語書体と英語書体を混合して表記する。

#### モリサワ新ゴUD/R

阪神電車 出口 グランフロント  
きっぷうりば

#### モリサワ新ゴUD/DB

阪神電車 出口 グランフロント  
きっぷうりば

#### 長体変形

・ 正体

阪神電車

100%

・ 90%長体

阪神電車

90%

・ 80%長体

阪神電車

80%

#### 日本語にアルファベットが含まれている表示例



## 2-4-2 英語・数字書体

### ルール

- 英語・数字書体は「Frutiger」を使用する。  
※ ただし、同系の書体であれば各事業者のサインマニュアルを優先することを認めることとする。
- 正体の使用を原則とする。文字数や表示面により Frutiger Condensed の使用し、それでも収まらない場合は、横変形率は80%までの長体使用や文字の縮小を可能とする。

Linotype Frutiger STD/55 Roman

Hanshin Line Exit Grand Front  
1234567890

Linotype Frutiger STD/65 Bold

Hanshin Line Exit Grand Front  
1234567890

### 長体変形

・ Linotype Frutiger STD/65 Bold 正体

Hanshin Line

100%

・ Linotype Frutiger STD/65 Bold 80%長体

Hanshin Line

80%

・ Linotype Frutiger STD / 65 Bold Condensed 正体

Hanshin Line

100%

・ Linotype Frutiger STD / 65 Bold Condensed 80%長体

Hanshin Line

80%

## 2-4-3 韓国語・中国語（簡体字）書体

### 推奨事項 韓国語書体

- 韓国語に使用する書体は「SD(Sandoll) Gothic Neo1」を推奨する。  
※ただし、同系の書体であれば各事業者のサインマニュアルを優先することを認めることとする。
- 正体の使用を原則とする。文字数や表示面により横変形率80%までの長体使用を可能とする。

### SD(Sandoll) Gothic Neo 1/Extra Bold

**출구**

出口

**화장실**

お手洗

**안내소**

案内所

### 長体変形

・SD Gothic Neo 1  
/Extra Bold 正体

**화장실**

100%

・SD Gothic Neo 1  
/Extra Bold 90%長体

**화장실**

90%

・SD Gothic Neo 1  
/Extra Bold 80%長体

**화장실**

80%

### 推奨事項 中国語（簡体字）書体

- 中国語（簡体字）に使用する書体は「HY DaHeiTi（漢儀大黒体）」を推奨する。  
※ただし、同系の書体であれば各事業者のサインマニュアルを優先することを認めることとする。
- 正体の使用を原則とする。文字数や表示面により横変形率80%までの長体使用を可能とする。

### HY DaHeiTi（漢儀大黒体）

**出口**

出口

**洗手间**

お手洗

**问询处**

案内所

### 長体変形

・HY DaHeiTi 正体

**洗手间**

100%

・HY DaHeiTi 90%長体

**洗手间**

90%

・HY DaHeiTi 80%長体

**洗手间**

80%

## 2-5 【誘導・案内サイン】デザイン（ピクトグラム）

**ルール**

- 「案内用図記号 JISZ8210」で制定されている下記のピクトグラムを使用する。  
 （※印は除く。）一部はオリジナルのピクトグラム（★印）を使用する。
- ピクトグラムは視距離に基づいて表示の大きさを設定する。

**補足**

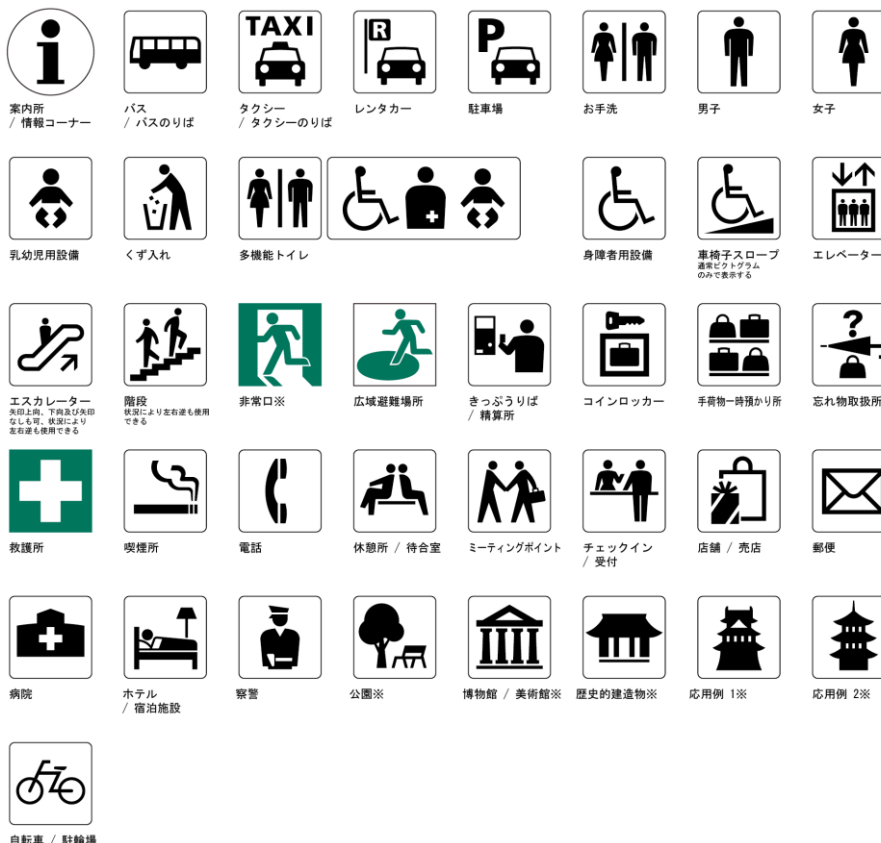
- ・ 国の指針に沿って、更新をしていくこと。
- ・ ピクトグラムサイズと視距離の関係の目安は 2-7-1 【誘導サイン】デザイン（基本割付）を参照すること。

**主要交通施設**



コーポレートカラーや展開されている路線カラーを用いて、各路線等を区別することで判読性を増進させ、利用者の理解度を向上させる。

**その他誘導・案内サイン**





## 2-6 【誘導サイン】デザイン（矢印）

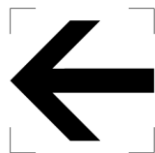
**ルール**

- 矢印は下記 12 種類を組み合わせる。
- ※ただし、特別な事情がある場合に限り、斜めやカーブを認める。

補足

- ・設置環境において特別な場合を除き、「対象が明確な場合に限る矢印」「特別な場合のみ使用する矢印」の使用は極力避ける。

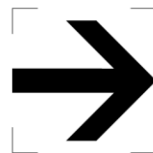
### ○ 基本とする矢印



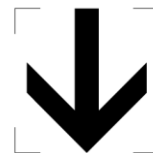
左進



直進 / 上がれ



右進



下がれ / くぐれ

### △ 対象が明確な場合に限る矢印



左へ上がれ  
/ 左前方へ直進



右へ上がれ  
/ 右前方へ直進

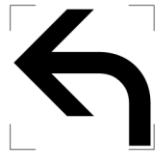


左へ下がれ



右へ下がれ

### △ 特別な場合のみ使用する矢印



少し直進後左折  
(直進不可の場合に限る)



少し直進後右折  
(直進不可の場合に限る)



左からUターン  
(行き止まり等  
特別な場合に限る)



右からUターン  
(行き止まり等  
特別な場合に限る)

## 2-7 【誘導サイン】デザイン（基本割付）

### 2-7-1 文字とピクトグラムのサイズ

#### ルール

- サインの視距離に対し、下表 **文字のサイズと視距離の関係の目安**  
**ピクトグラムのサイズと視距離の関係の目安** で設定された性能以上のサイズで表示  
 すること。

#### 補足

- ・ 遠くから視認する吊下げ型等の誘導サインや記名サインなどは20m以上、近くから視認する自立型や壁付型等の案内サインなどは4~5m以下、案内サインの見出しなどは10m程度に視距離を設定することが一般的である。

#### 文字のサイズと視距離の関係の目安

視距離	日本語文字高	英語文字高
40mの場合	160mm以上	120mm以上
30mの場合	120mm以上	90mm以上
20mの場合	80mm以上	60mm以上
10mの場合	40mm以上	30mm以上
4~5mの場合	20mm以上	15mm以上
1~2mの場合	9mm以上	7mm以上

※「バリアフリー整備ガイドライン」参照

- ・ 視距離 1~2mの場合の最小文字高  
 (日本語 9mm 以上/英語 7mm 以上)

9  
7  

 阪急電車  
 Hankyu Line

- ・ 視距離 10mの場合の最小文字高  
 (日本語 40mm 以上/英語 30mm 以上)

40  
30  

 阪急電  
 Hanky

#### ピクトグラムのサイズと視距離の関係の目安

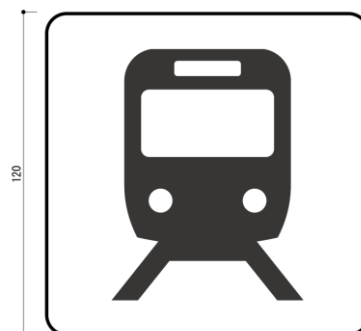
視距離	基準枠の寸法
40mの場合	480mm 以上
30mの場合	360mm 以上
20mの場合	240mm 以上
10mの場合	120mm 以上
5mの場合	60mm 以上
1mの場合	35mm 以上

※「バリアフリー整備ガイドライン」参照

- ・ 視距離 1~2mの場合の最小サイズ (35mm 以上)



- ・ 視距離 10mの場合の最小サイズ (120mm 以上)



## 2-7-2 文字とピクトグラムの割付比率

補足

### ルール

- 文字とピクトグラムは、ピクトグラムの高さを  $H$  とした場合、日本語  $0.45H$ 、英語  $0.35H$  の比率で表示すること。詳細は下図 **基本レイアウト** を参照。

※ ただし、表示面積や配置場所等に制限がある場合は、その限りではないこととする。

- ・ピクトグラムと文字を組み合わせる場合、ピクトグラムの視認性は、文字と同等かそれ以上の大きさでなければピクトグラムを用いた効果は発揮しない。**基本レイアウト** はその条件を満たすように設定した。
- ・ピクトグラムサイズ・文字サイズと視距離の関係の目安は 2-7-1 【誘導サイン】デザイン（基本割付）を参照すること。
- ・バス停名は日本語・英語の文字高さを  $0.25H$  小さく表示する。
- ・4か国語表記は文字高さを  $0.75H$  で表示する。

### 基本レイアウト



## 2. 基本ルール <デザイン>

### 矢羽根型サインのレイアウト例（視距離 10m）

（※筐体の詳細設計を行っていないため、レイアウトは仮とする。）

補足

- ・矢羽根型サインで情報が多く、サイン板面に収まりきらない場合でも、視認性が落ちるため2行組は行わない。



### 天吊サインのレイアウト例 1（視距離 15m程度）

- ・交通施設情報をより大きく見せ、視認性を向上する工夫をする。
- ・誘導方向の視認性を向上させるため、矢印のサイズはピクトグラムの10%程度大きくする。
- ・情報と情報間のマージンはピクトグラムの高さの1/2以上空ける。



### 基本レイアウト例 2（視距離 10m程度）



## 2. 基本ルール <デザイン>

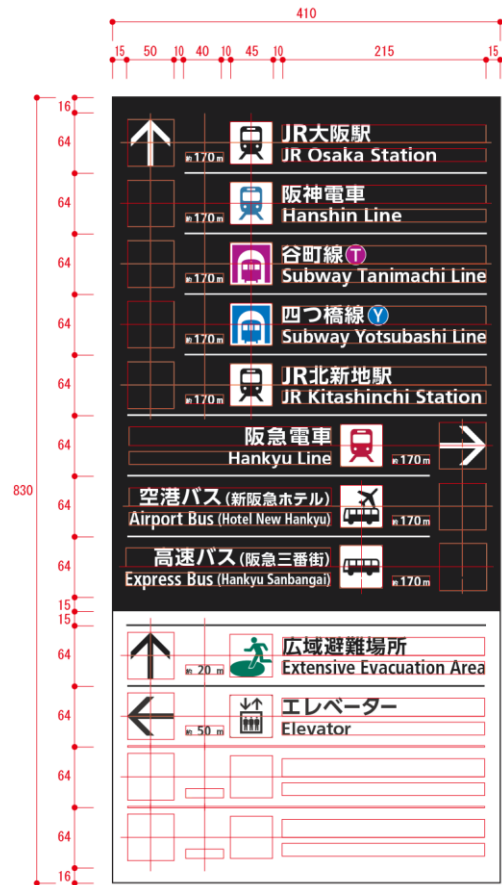
### 建設局サインを共用した誘導サインのレイアウト例（視距離 2～3m程度）

- ・ 誘導方向の視認性を向上させるため、矢印のサイズはピクトグラムとの10%程度大きくする。
- ・ 各情報の判読性を高めるため、誘導方向が同一方向の表示内容をグループ化し、グループ及び各情報ごとに仕切り線をいれる。その際、矢印は一つのみ表示し、仕切り線は短くピクトグラムのラインと揃える。

・ 10 段



・ 12 段





## 2-8 【誘導サイン】デザイン（基本表示面構成）

**ルール** 板面レイアウト

- 情報と情報の間の余白を保った板面レイアウトで設計をすること。
- 情報をグループ化もしくは仕切り線を表示するなど、同一方向の情報に分離した板面レイアウトで設計をすること。
- 情報の掲載順は、下表 <板面レイアウト順> に従い設計をすること。
- 矢印の先に情報を表示しない。

**補足**

- ・情報と情報の間の余白を保ち、横組みでは左揃え・中央揃え・右揃え、縦組みでは上揃え・中央揃え・下揃えにすることで読みやすく、直観的に分かりやすい板面レイアウトとなる。
- ・同一方向の表示内容をグループ化したり、仕切り線で分離する等工夫をすることで、利用者にとって分かりやすい板面レイアウトとなる。

**板面レイアウト順の例**

ルール	備考
1. 左から順に「左進方向」「直進方向」「右進方向」で表示する。	縦組みの場合、直進方向があれば一番上は「直進方向」、以下は順不同。
2. 同一方向の表示内容の中で、サインの設置位置から近い順にレイアウトする。	表示内容が同程度の距離の場合、ピクトグラムの種類を前後関係で合わせる。

・横組みでの同一方向の表示内容の中でのレイアウト順



・縦組みでの同一方向の表示内容の中でのレイアウト順



**情報と情報の間の余白を保った板面レイアウトの例**

・左揃えは左方向への誘導効果がある。

・中央揃えは直進方向への誘導効果がある。  
 ・両側のマージンは均等にあげる。

・右揃えは右方向への誘導効果がある。



## 2. 基本ルール <デザイン>

### 情報のグループ化を行った板面レイアウトの例

・ 同一方向のグループ別にサイン板面を分けて表示する。



・ 仕切り線でグループ別に表示する。



### 横組み板面レイアウト順の例

・ 左進方向の表示内容

・ 直進方向の表示内容 右進方向の表示内容



### 縦組み板面レイアウト順の例

・ 矢印の位置は原則左側。右進方向がある場合、矢印とピクトグラムを右側に表示する。



### 3. 誘導ルートの設定



### 3. 誘導ルートの設定

## 3-1 誘導ルート設定の考え方

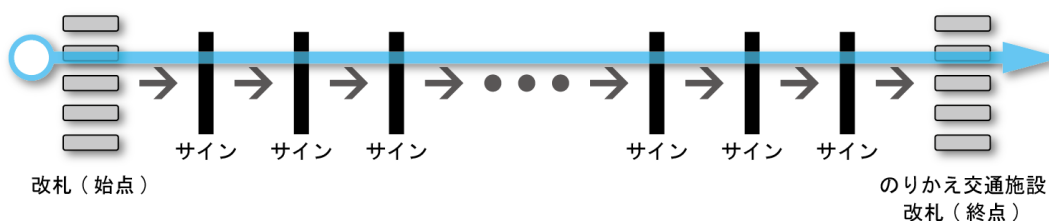
### 基本的な考え方

- ・施設に至るルートが複数ある場合は、最短ルートを誘導する。
- ・誘導ルートはメインルートとサブルートに分けて考える。
- ・分岐点における交通施設の誘導は、別添添付資料を基本とする。

#### 誘導ルート設定

<メインルート>（次ページに記載）

- (1) 交通施設の改札等の始点から目的ののりかえ交通施設の改札までの最短ルート
- (2) 最短ルートにおいて、頻繁な階層の上下移動は混乱に繋がるため、同じ階層で可能な地点まで移動する
- (3) 地区内で歩行者交通量が相対的に著しく多いルート（※1）
- (4) ただし（1）（2）（3）に該当するも、交通施設が稼働している時間に閉鎖されるビル内地下通路等、梅田ビギナーの迷う恐れのあるルートは除外する（※2）



（※1）（※2）「梅田ターミナル地域 地域共通サインシステムマニュアル」2-1 地域動線とサイン配置箇所を参考とした。

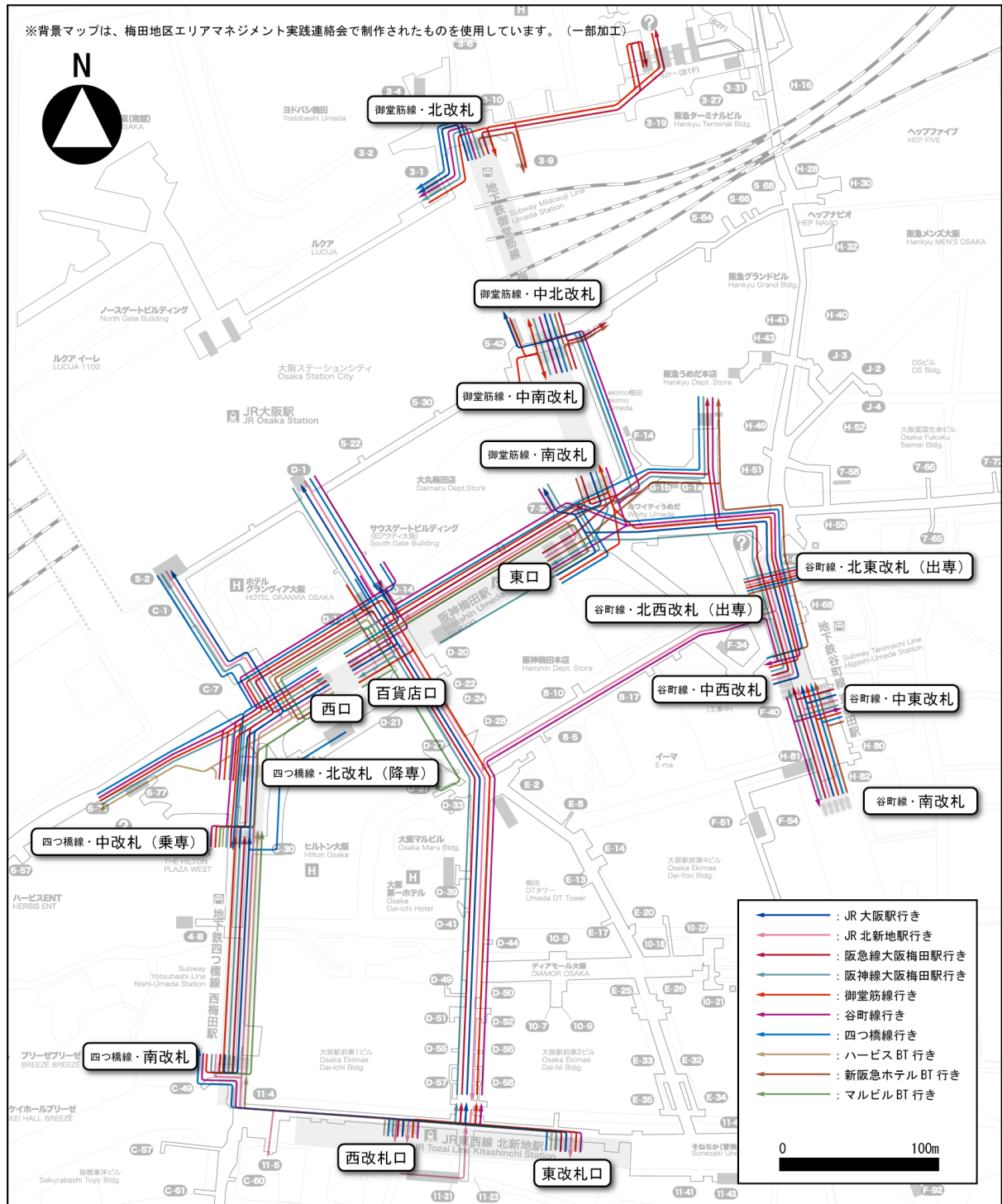
<サブルート>

- ・メインルート以外のルート。

### 3. 誘導ルートの設定

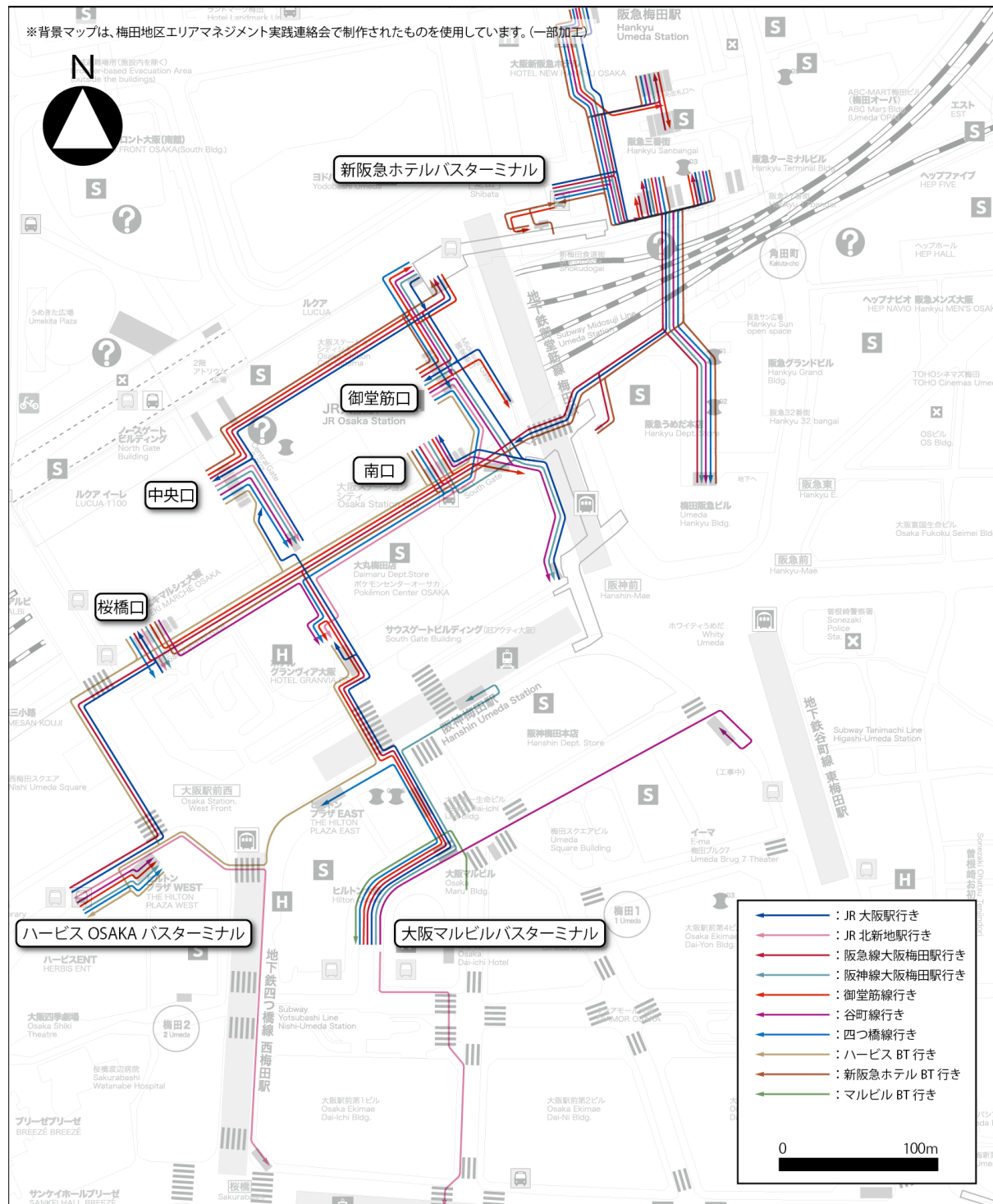
#### フロア毎のメインルート図

・地下



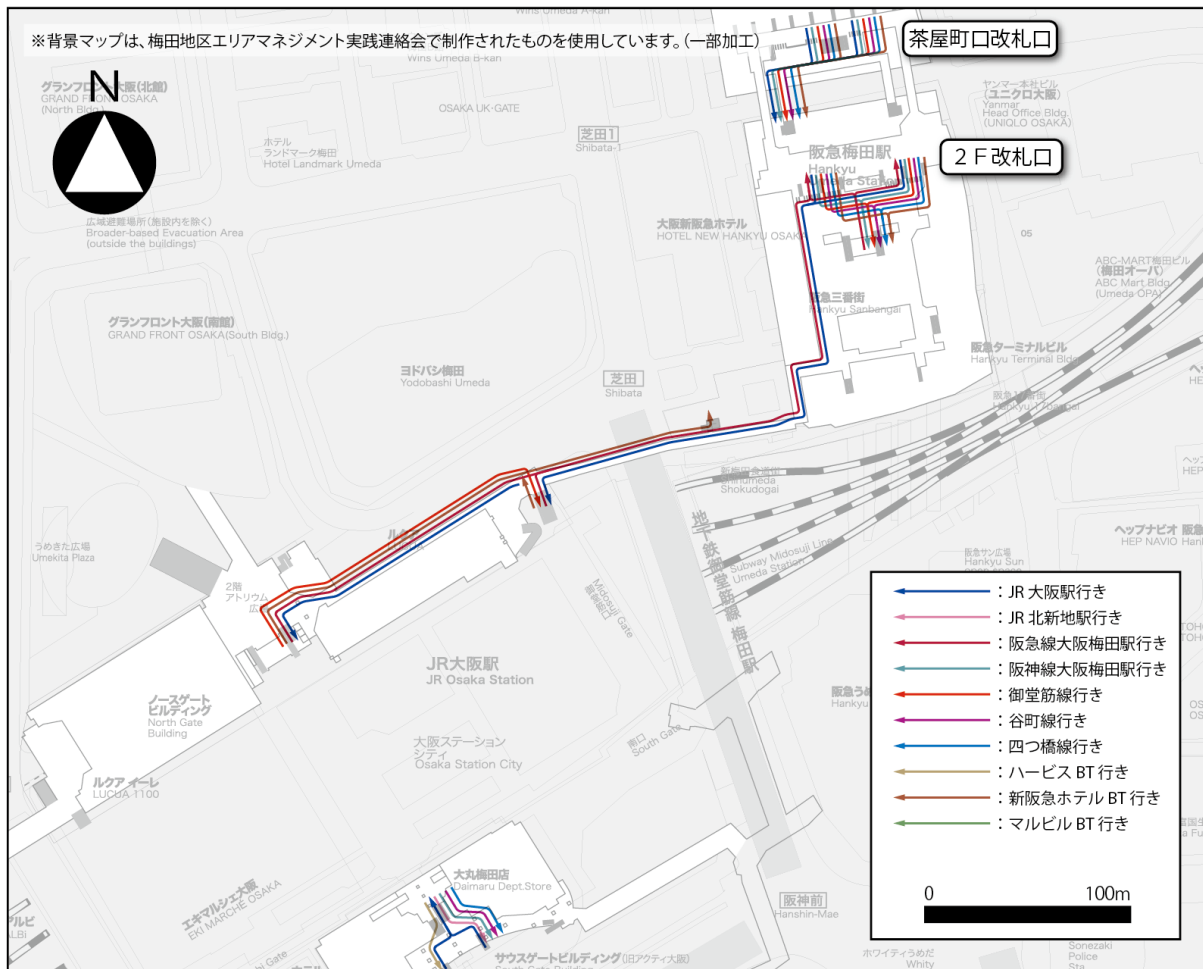
### 3. 誘導ルートの設定

#### ・地上



### 3. 誘導ルートの設定

・ 2F



・ 3F

